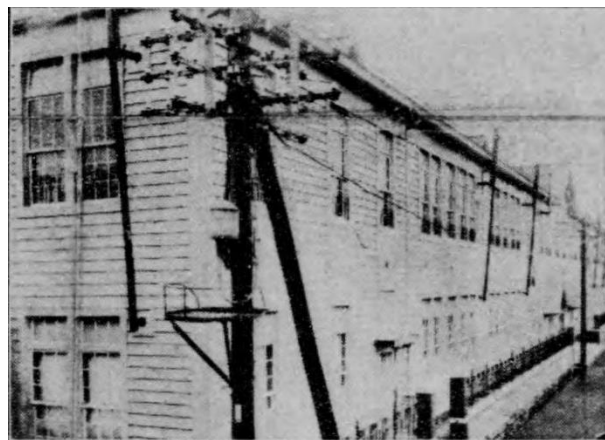


(1) 四谷第一尋常小学校

新聞記者である丸山幹治の子として生まれた丸山眞男は、父の仕事の都合で転居を繰り返して、小学生時代にも転校を経験している。最初に入學した精道尋常小学校時代について、丸山は多くを語っていない。1921(大正10)



年に転校した四谷第一尋常小学校（東京府東京市四谷区伝馬町）では、兵庫県から来た丸山は「田舎っぺい」といじめられたという（画像：四谷第一尋常小学校〈東京評論社編『四谷総案内』城西益進会、1915年〉）。四谷という地は山の手の一角でありながら鮫河橋のスラム街を抱え、小学校のクラスの少なくとも3分の1はスラムの子だった。母セイはスラムの子と遊ばないように言いつけたが、丸山兄弟はそれを守らなかったという。小学生時代、丸山はよく本を読み、また声がよく、学芸会では舞台にたって唱歌をうたった。1925(大正14)年からは中学校受験のために「日土講習会」に通うようになり、受験生としての生活がはじまった。セイはいわゆる「教育ママ」だったのである。これに対し、父は子どもの進路についてはリベラルで各自の希望を尊重したが、自分が学歴で苦勞した経験から、「日本では学校を出ないとひどく損をするから、学校だけは出てくれ」と言っていた。また、自分と同じ新聞記者だけにはならないでほしいと願っていた。